

2021年度（令和3年度） 講座概要

Ver.1.7: 2022/1/25
日程や講義概要について、都合により変更する場合があります

No.	講座No.	座学実習	講座カテゴリ	講師	職位	講師の所属機関	講座日付	講座時間	講義題名	講義の概要	受講証明
0	-	-	-	伊藤 正実	教授	群馬大学	10月21日	9:30-10:00 0.5H	ガイダンス	地域特性を活用した「多能工型」研究支援人材養成拠点の本コンソーシアム事業の構想、目的、組織体制、教育プログラムの概要について説明する。また、外部参加の受講者のため、簡単な所属組織の紹介や自己紹介も実施する。	-
							10月29日	13:30-13:45 0.25H			
							11月11日	13:00-13:15 0.25H			
1	I 01	座学	知財管理・契約	鬼頭 雅弘	教授	名古屋大学	11月12日	10:30-12:00 1.5H	大学における情報管理	共同研究等の産学連携活動の活性化に伴い、企業から秘密として保持すべき情報が大学に持ち込まれるなど、大学が企業等の秘密情報を保有し、これを取り扱う可能性が増大している。秘密情報は、漏えいにより、情報としての価値が失われることに加え、大学や企業に致命的な悪影響を与えるおそれがあるため、適切な管理が必要となる。本講義では、大学において、産学連携における秘密情報管理の体制づくりを行う上での課題を理解し、その対応例について学ぶ。	-
2	I 02	座学	知財管理・契約	川瀬 真	理事長	公益社団法人日本複製権センター	11月12日	13:30-16:00 2.5H	研究活動と著作権	大学における著作権の問題が増え、盗作、委託作品における著作権の帰属、教育研究のために無断で著作物を利用できる範囲など、多くの問題を大学は抱えている。講義では、まず著作権制度の概要を説明した上で、大学に関連した具体的な事例を取り上げ解説する。この講義は 11/15 に著作権のテストを実施する。	講座を受講し テストで80点以上
3	I 05	座学	知財管理・契約	佐田 洋一郎	知的財産センター特命教授	山口大学	11月11日	13:30-18:00 4.5H	特許法と大学知財の関わりについて	特許法の基礎から応用、特許取得のノウハウをはじめとして、大学の研究活動で創出された知的財産の取り扱い、産学連携活動がもたらす知財強化の仕組み、特に共同研究、受託研究での注意点、最近複数の大学や企業との連携によるコンソーシアム型研究開発が推進されており、そこでの特許管理の手法、研究現場での混同しがちな著作者と発明者の認定問題、研究ノートを活用したリスクマネジメント等々について学ぶ。この講義では 11/15 に講義内容に沿ったテストを実施する。	講座を受講し テストで80点以上
4	I 06	座学	知財管理・契約	道井 敏	顧問	株式会社PHoto electron Soul (名古屋大学発ベンチャー)	11月15日	15:15-17:15 2H	契約締結上の留意点	企業との共同研究、大学技術の企業への移転等、大学と企業が契約を締結する場面が増えてきている。大学と企業は立場が異なる面もあり、契約の内容について交渉が発生することも多い。契約内容の課題や留意点、交渉の進め方、対応策等について説明する。	-
5	R 01	座学	コンプライアンス・リスクマネジメント	伊藤 正実	教授	群馬大学	10月29日	14:00-15:30 1.5H	安全保障貿易管理の仕組みと大学における体制構築	海外との研究交流においては、安全保障貿易管理について理解し、法令に従って適切な輸出管理を実施しなければならない。本講義では、基礎的な輸出管理に関する法律の枠組み、大学における研究・教育活動の安全保障貿易管理との関わりについて理解する。またリスト規制やキャッチオール規制、規制対象に該当した場合の対応方法について説明する。さらに企業と異なる組織文化を持つ大学で十分機能する輸出管理体制をどのように構築すべきかを学ぶ。この講義は 11/4 に輸出管理のテストを実施する。	講座を受講し テストで80点以上
6	R 02	座学	コンプライアンス・リスクマネジメント	河合 孝尚	リサーチ・アドミニストレーター	琉球大学	10月29日	15:45-17:15 1.5H	安全保障輸出管理の重要性とケーススタディ	近年、日本から外国への技術流出が社会的な問題となっており、大学においても研究技術の流出防止を目的として安全保障輸出管理の徹底が求められている。また日本国政府から国内の大学に対しては、国際産学官連携活動の強化として外国企業との国際産学官連携活動の促進・強化が求められており、安全保障輸出管理の重要性は年々増してきている。本講義では、大学における安全保障輸出管理の重要性について事例を用いながら解説し、受講者の安全保障輸出管理の知識・理解を促進し、適確に判断・行動できるようにすることを目的とする。	-
7	R 03	座学	コンプライアンス・リスクマネジメント	鈴木 睦昭	室長 ABS学術対策チーム 責任者	国立遺伝学研究所	11月4日	13:30-15:00 1.5H	生物多様性条約及び名古屋議定書について	海外の遺伝資源にアクセスする場合、生物多様性条約のアクセスと利益配分(ABS)について理解し、提供国の関係法令を遵守しなければならない。講義では、基礎編として、生物多様性条約の下での遺伝資源へのアクセスと利益配分(ABS)の基本、名古屋議定書の概要、トラブル事例について学ぶ。実務編では、大学での管理、各国法令・規則の紹介、契約文章の確認、ABS指針など、実践的な内容を習得する。この講義は 11/9 に理解度を把握するためのテストを実施する。	講座を受講し テストで80点以上
8	R 04	座学	コンプライアンス・リスクマネジメント	丹生谷 博	講師	早稲田大学	11月9日	13:30-14:30 1H	カルタヘナ法について	遺伝子組換え生物の使用等に関する法令は、研究者にとっても理解が難しい内容が含まれている。法令違反は大学や社会にとって重大な影響を与えるため、研究支援者も一定レベルの理解を有することが必要である。講義では、カルタヘナ法の概要及び実際の運用について学ぶ。また理解度把握のため、簡単なテストを実施する。	講座を受講し テストで80点以上
9	R 05	座学	コンプライアンス・リスクマネジメント	野内 玲	助教	信州大学	11月4日	15:15-16:45 1.5H	研究支援者の立場から見た研究者倫理と対応の考え方	URAの立場にある者は研究活動のあらゆる過程に関わりうる。そのため、研究者倫理に関しては、特定不正行為(捏造・改ざん・盗用)のことだけでなく、総合的に研究活動の公正性を理解しておくことが重要である。本講義では、組織として、また個人として研究者の活動を支援するための考え方や事例を説明する。	-
10	R 06	座学	コンプライアンス・リスクマネジメント	飯田 香緒里	教授	東京医科歯科大学	11月5日	13:30-16:00 2.5H	利益相反	産学連携を含む外部との連携の際には、その適正な実施、信頼性維持に向けて、利益相反への対応が求められる。講義では、アカデミア研究における利益相反とは何か等の概要を理解した上で、大学の教職員として求められる対応について学ぶ。また、理解度を把握するためテストを実施する。	講座を受講し テストで80点以上

2021年度（令和3年度） 講座概要

Ver.1.7: 2022/1/25
日程や講義概要について、都合により変更する場合があります

No.	講座No.	座学実習	講座カテゴリー	講師	職位	講師の所属機関	講座日付	講座時間	講義題名	講義の概要	受講証明
11	F01	座学	ファンド申請	山口 佳和	教授	千葉工業大学	10月21日	10:00-12:00 2H	日本の科学技術政策の概要	ファンドは、日本の科学技術政策に基づいて、担当する組織やその制度が構築されている。このため、ファンドを申請、獲得、利用する上で、科学技術政策を理解しておくことが重要である。科学技術政策とは何か、科学技術政策の歴史、科学技術基本法、科学技術基本計画、科学技術政策の現状と課題について講義し、科学技術政策の基本的な知識を習得する。また、科学技術政策の考え方に基づいて、ファンドに関連する施策がどのように形成されているかについて、事例を取り上げて考察し、科学技術政策への理解を深める。	-
12	F02	座学	ファンド申請	丸本 萌 大原 ひかる 福田 大貴	主査 主査 主査	科学技術振興機構 (JST)	10月22日	15:15-16:45 1.5H	JST支援事業「研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP)」	JSTでは科学技術イノベーションを推進するため、産学が連携した研究開発成果の展開を支援している。講義では、研究成果展開事業のうち研究成果最適展開支援プログラム～(A-STEP)にフォーカスし、制度全体および各メニューの狙いや支援内容について、2021年度公募に際して見直された内容を含め、詳しく学ぶ。	-
13	F03	座学	ファンド申請	幸本 和明	主幹	新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)	10月28日	13:30-15:00 1.5H	NEDO支援事業のご紹介	NEDOは経済産業省の外郭のファンディングエージェンシーであり、環境・エネルギー分野、産業技術分野といった非常に幅広い分野の研究開発に対する支援をおこなっている。本講義ではNEDO事業の概要及び、NEDOが取り扱う最新の支援メニューについて学ぶ。	-
14	F04	座学	ファンド申請	澤田 芳郎	主任研究員	株式会社シー・ディー・アイ	10月22日	13:00-15:00 2H	「メタサイエンス」としての科研費申請書チェック～茨城大学URAオフィスでの経験から～	URAは科学そのものおよび科学をめぐる環境の理解をもとに、科学の社会的意味の発揮にもつら関わらる。ゆえに科学史、科学哲学、科学社会学など科学に関する科学の総称である「メタサイエンス」は立脚点として有効である。本講義では科研費申請書のチェックをどのように進めるかをを通して、URAのあり方を考える。科研費申請書は、①研究テーマそのもの、②申請書の「リーダビリティ」、③過去の研究成果による信頼感醸成がポイントである。URAは主として②の向上に関わるが、科学を学問的文脈、社会的文脈に位置づけ直すことを通じて、①の研究テーマに踏み込むべき場合もある。このときURAは独特の倫理的問題に直面する。本講義はURAに限らず、産学連携コーディネータやサイエンスライターなど、科学の社会的、人間的意味を追求する職業を目指す人々にもヒントを提供できるだろう。	-
15	F07	座学	ファンド申請	永井 雅規	部長	日本医療研究開発機構 (AMED)	10月28日	15:15-16:45 1.5H	AMEDの事業について	AMEDが支援する、基礎から実用化までの医療研究開発の推進及び研究開発環境の整備に関する事業概要を紹介するとともに、AMEDが取り組む研究開発マネジメントについて概説する。	-
16	C05	座学	企業活動	平尾 敏	代表	株式会社ステップアップ	12月23日	13:30-16:30 3H	企業分析概論	大型の共同研究契約を獲得するためには顧客の内容(強み・弱み、中期経営戦略等)を知り成長戦略の道標を大学から企業に提案する事が重要です。そのためには「有価証券報告書」を深く読み、経営者の琴線に触れる共同研究提案書を作成するヒントを読み取ります。まずは、企業分析からOne page summaryの作成までの方法を皆さんと一緒に考えます。	-
17	C06	座学	企業活動	平尾 敏	代表	株式会社ステップアップ	11月18日	10:00-11:30 1.5H	大学発ベンチャー支援	大学発ユニコーン企業は米国、中国に多くあります。わが国では2001年に「平沼プラン」といわれた「大学発ベンチャー1000社構想」を掲げ、曲がりなりにもその数値を達成しましたが、実態はユニコーン企業とは大きくかけ離れています。真の大学発ベンチャーをどのように育てていくのか。その第一歩を考えます。	-
18	P07	座学	プロジェクト調整能力	伊藤 正実	教授	群馬大学	11月18日	15:15-16:45 1.5H	産学連携のコーディネート	産学連携においては、ある研究テーマに対して実施しうるかどうかがセクター毎に異なる制約条件があり、双方がこれを満たしたうえで、異セクター間の関係調整のマネジメントが機能すればプロジェクトは成立するのであるから、原理的には単純である。しかしながら、着実に成果をあげているコーディネータやURAは少数である。ここでは、実務的に見てどのようなスキルやリテラシーが必要なのか、解説する。講座のレベルの設定は本コンソーシアムでの調整能力力量評価で60点以上80点未満程度の方を意識したものとす。	-
19	P08	座学	プロジェクト調整能力	木村 晃子	シニア・リサーチ・アドミニストレータ	宇都宮大学	11月18日	13:30-15:00 1.5H	プロジェクトマネジメント	URAには、産学連携や競争的資金獲得活動などの様々なシーンで、その各々のイベントに係わるステークホルダー(大学、企業、自治体、金融機関等)と研究開発プロジェクトを構成し運営する能力が求められる。本講義では、研究プロジェクトの企画段階から資金獲得(プレアワード)、プロジェクト始動後のマネジメント(ポストアワード)に至るまでの、URAのとるべき行動について、PMBOKの知識体系に基づき、具体的な事例を交えて解説する。	-
20	A02	座学	その他応用講座	木村 彰吾	副総長	名古屋大学	12月10日	10:00-11:30 1.5H	国立大学法人の財務・会計	国立大学法人が持続的に教育研究を遂行していくためには、安定的な財源確保が必要不可欠である。国立大学法人の主たる財源は、学生納付金や附属病院の診療報酬等の自己収入に加えて、国からの支援である運営費交付金である。しかしながら、国の財政状態が厳しく、運営費交付金の増加が期待されない状況では、自己財源の一層の増加・多様化が必須であり、欧米の大学に倣い産学共同研究、知財の活用、募金活動が求められるようになってきている。本講義では、国立大学法人における教育・研究活動をビジネスモデルの視点で分析し、その上で産学共同研究、知財の活用、募金活動とかわらせて財務マネジメントを説明する。	-
21	A03	座学	その他応用講座	山本 進一	理事・副学長	豊橋技術科学大学	12月10日	13:00-14:30 1.5H	大学の研究力評価	大学の研究力評価には、自大学の研究力をエビデンスに基づいて客観的に評価しなければならない。従来は、主観に基づいた定性的評価が主流であったが、IT技術の発達等によりピアレビューに代表されるような定量的評価が可能となってきた。本講義では、研究力を適切に評価できる可能性の高い「指標」の種類とその特性・特質について講述し、具体的な適用例を紹介する。	-
22	A04	座学	その他応用講座	山本 進一	理事・副学長	豊橋技術科学大学	12月10日	14:45-16:15 1.5H	大学経営を加味した研究戦略の立て方	国の財政悪化、受験生人口の減少、等により大学の財政状態は今後も厳しい状況が続くと予想される。このような大学経営状況下で、いかに各大学の研究力を強化し、研究人材を育成していくかについては、各大学の特性・状況に応じた研究戦略の構築が必須である。岡山大学を実例として、研究力評価の分析結果に基づくとともに経営上の視点を加味した研究戦略の構築方法の概略について講述する。	-

2021年度（令和3年度） 講座概要

Ver.1.7: 2022/1/25
日程や講義概要について、都合により変更する場合があります

No.	講座No.	座学 実習	講座カテゴリー	講師	職位	講師の所属機関	講座日付	講座時間	講義 題名	講義の概要	受講 証明	
23	F05	実習	ファンド申請	-	-	-	課題提示 11月30日 (メールもしくは郵送にて提示) 提出 2022年 1月31日	-	第1回 ファンド申請 リライ作業	研究支援者は、科学技術基本計画から日本の科学技術政策の流れを理解し、個々のファンディングのメニューに合った申請書にする必要がある。 この実習講座では実際に申請に用いられた研究補助金申請書を題材として、これのブラッシュアップをしていただき、この内容から、研究のコンテンツを理解しているか、当該事業趣旨に合致したものになっているか、十分に訴求する内容になっているかなどの観点から、評価委員と申請書を提出した研究者が評価と点数を付け、改善点を指摘する。	1回の申請書ブラッシュアップトレーニング ブラッシュアップの内容が誤字脱字の指摘や”てにをは”の修正等、きわめて限定的な場合は、不合格とする場合がある。	ファンド申請の座学講座 (F01,F02,F03,F04,F07)の受講かつ実習講座 (F05)を受講し課題において合格した場合に発行
24	C02	実習	企業活動	荒牧 義典	部長	カゴメ株式会社	課題提示 12月24日 提出 2022年 2月21日	13:30-17:00 3.5H	第1回 企業活動 理解能力向上	この講座は、企業の経営者や幹部技術者を招き、研究開発体制や事業化する戦略について講義していただき、これをベースに当該企業における新規事業の在り方等について、グループで討議をしてもらう。また、当該企業に対する所属大学のリソースを用いた産学連携の提案等といったレポートを後日提出していただき、この評価とともに、提案された内容によっては、具体化できるかどうかの検討をプレゼンをしていただいた企業にさせていただく。	原則、年2回のレポート提出 レポートの内容が、今までの講義等の概要をまとめただけでなく、取り組む姿勢等に問題がある場合、評価者が不合格とする場合がある。	企業活動の座学講座 (C05,C06)の受講かつ実習講座(C02,C03)を受講し、課題において合格した場合に発行
25	C03	実習	企業活動	西松 哲義	研究本部副部長兼総合研究所長 上席執行役員	日本農業株式会社	課題提示 2022年 3月25日 提出 2022年 5月23日	13:30-17:00 3.5H	第2回 企業活動 理解能力向上			
26	P01	実習	プロジェクト調整能力	伊藤 正実	教授	群馬大学	11月19日	13:30-17:00 3.5H	第1回 プロジェクト 調整能力	プロジェクトは、企画立案、プロジェクトに関する契約の構築、契約に基づいたプロジェクトの実行の3段階のプロセスがある。研究支援者は異セクター同士が連携するプロジェクト(学際領域研究を含む)で、研究者と企業との関係を調整し、プロジェクトリスクをリスクのない形で確定することに、第三者的視点から寄与することが、その実績をあげる上で必要である。	3回の受講と調整能力力量評価シート提出 プロジェクト調整能力実習講座 (P01,P02,P03)の受講し力量評価の提出と、座学講座 (P07,P08)を受講して発行	
27	P02	実習	プロジェクト調整能力	伊藤 正実	教授	群馬大学	2022年 1月21日	13:30-17:00 3.5H	第2回 プロジェクト 調整能力	この実習講座は、蓄積された過去の調整能力力量評価の記録から、URAが関わった事例を基に討議課題を設定し、ケーススタディを実施する。グループ討議と発表により、双方で気づきを与え、研究支援活動の調整能力向上を図る。		
28	P03	実習	プロジェクト調整能力	平尾 敏 伊藤 正実	代表 教授	株式会社ステップアップ 群馬大学	2021年 2月18日	13:30-17:00 3.5H	第3回 プロジェクト 調整能力			
29	S01	実習	研究活動	中村 麻子	教授	茨城大学	課題提示 12月3日 提出 2022年 2月7日	13:30-17:00 3.5H	第1回 研究活動 把握能力	異セクター間、異分野間のプロジェクトに対する双方のセクターの間の認識のずれを理解する上で、研究支援者は、大学の研究内容だけでなく研究者のポリシーやスコープに対して一定のレベルの理解が必要である。そもそも研究支援者として活動をしていく上で研究内容の理解能力はある程度、必要なものである。	原則 年2回のレポートを提出	研究活動 実習講座(S01,S02)を受講し、課題において合格した場合に発行
30	S02	実習	研究活動	大澤 和敏	教授	宇都宮大学	課題提示 2022年 2月4日 提出 2022年 4月4日	13:30-17:00 3.5H	第2回 研究活動 把握能力	この実習講座は、社会課題解決志向の研究活動を実施している大学研究者に研究のプレゼンを実施し、これに対する学際領域研究や産学連携の提案をする。		